

日 時 平成 26 年 10 月 10 日 (金) 9:55 ~ 10:40
場 所 附属小 5 年 2 組教室
指導者 脇山 英靖

本授業の主張点

本授業では、「視点」を基に、強調される内容の違いについて検討させます。複数の挿絵を比較する。すると、見えなかった世界が「見えてくる」。「こんな観点で読めば作品の『しかけ』がわかるよ」—「読みの観点」が作品を読み進めるのに役に立つことに気づく、そんな児童の姿をお見せします。

1 単元名 「ガイドブック」で物語のしくみを紹介しよう 『大造じいさんとガン』 (東京書籍 5 年下)

2 単元の目標

- ◎ 作品設定、人物像、繰り返し、クライマックス、視点、対比、話者などの「読みの観点」を基に、人物の心情の変化を読み取ることができる。
- 習得した「読みの観点」を使って、「ガイドブック」を作ることができる。

3 評価規準【学力デザイン レベル3より】

- 物語を読み、進んで「ガイドブック」を完成させようとしている。【関】
- ◎ 作品の構成を捉え、人物の心情の変化や作品の工夫を「読みの観点」を基に読んでいる。【読】

4 単元とその指導 ()…「読みの観点」

(1) 児童観

本学級の児童は、『だいじょうぶだいじょうぶ』では、言語活動「語り」を通して、挿絵や人物の言動を基に、題名が繰り返されること、視点が変わること、はじめとおわりは内容が入れ替わることを読み取る学習を行っている。『世界で一番やかましい音』では、作品を設定・展開・山場・結末に分け、物語の基本構成を学んでいる。また、設定と結末を比較する学習を通して、登場人物や場所が対比的に書かれていること、題名がキーワードの役割をすること、展開は繰り返しになっていることなどを新たな「読みの観点」として習得している。『注文の多い料理店』では、帯作りを通して、「扉」という観点から、入口と出口に分け、設定から人物像を捉えたり、「だれからだれへの注文か」という観点で作品を俯瞰して読んだりしながら、対比、キーワード、視点、題名の工夫などの「読みの観点」を習得している。これまでに習得した「読みの観点」を以下に示す。

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| a: 「設定・展開・山場・結末」で構成されていること | b: 物語には「時・場・人」があること |
| c: 「時・場・人」は、「設定」に多いこと (作品設定) | d: 物語は、何枚かの絵で表せること (紙芝居) |
| e: 物語には場面があること (事件の集まり) | f: 場面が変わると、新しい人物が登場すること |
| g: 場面は「時間ことば」で分けられること | h: 物語には「繰り返し」があること |
| i: 「中心人物」は「山場」で気持ちが変化すること | j: 「山場」には、クライマックスがあること |
| m: 最後の一文で「結末」が大きく変化すること | n: 題名はキーワードであること |
| o: 「設定」と「結末」では内容が入れ替わること | p: 物語は視点が入れ替わること (カメラアングル) |
| q: 視点人物が入れ替わる時があること | r: 物語には話者 (話主) がいること (透明人間) |

しかし、「おもしろかった」、「楽しかった」など、作品の印象にとどまる発言が多い。「おもしろかった」内実を語る観点や語彙に乏しい面があり、作品を自覚して読み進めることは十分ではない。

(2) 教材観

本教材は、狩人を生業にする「大造じいさん」が、他ならぬ「残雪」に心惹かれていく物語である。「大造じいさん」の心は、「たかが鳥のことだ」から、「ただの鳥に対してのような気がしませんでした」へと変わる。殺伐とした関係にありながらも、それを超越し、心の結びつきを求めようとする「大造じいさん」の心の有りようは、読み手を引きつけて放さない。作品は、一年に一つの「知恵比べ」が丹念に描かれ、それが翌年の伏線となる特徴を持つ。そのため、時間の経過を基に、場面構成を捉えることが容易である。また、「あかつきの光」、「東の空が真っ赤に燃えて」、「らんまん」とさいたスモモの花」など、絵画的な情景は、「大造じいさん」の心の中を語る。色彩語は澄み切った世界を演出し、「真っ白」や「くれない」は「残雪」の純真さ、威厳を浮き彫りにし、人物造形に深く関わっている。これらの表現は、物語に臨場感を与え、人物の心の動きや状況を読み手の脳裏に鮮明に映し出す装置として働く。クライマックスでは、「大造じいさん」から「残雪」へ、視点の転換が訪れる。「大造じいさん」の気持ちを敢えて描かない工夫は、「大造じいさん」の心情を想像させることを必然的に促す。結末では、動から静へ、絶妙な切り替えが行われ、「ひと冬」に起こった二人の関

係を描写しない余韻を残す幕切れは、作品構成の巧みさである。以上のことから、「読みの観点」(『作品設定』、人物像、繰り返し、クライマックス、視点、対比、話者など)を使って、人物の心情の変化を読み進めるのに適した教材である。結果がわかっていながらも、何度でも読み返したくなる、紹介したくなる魅力溢れる作品である。以上のことから、習得した「読みの観点」を活用しながら、人物の心情の変化を読み取る学習は、作品を分析し、熟考・評価をしながら、自力で読む学習へとつながっていく(学力デザイン4)。

(3)指導観

言語活動「ガイドブック」(学習手引き書)作りを通して、「読みの観点」を活用し、自力で作品を読む力を身に付けさせる。そのため、「読みの観点」を「図知って、図使って、図使えるようにして、図共に使う」ステップに分け、段階的な指導を行う。「物語のしかけが丸わかりー『ガイドブック』を作って、図書室に置いてもらおう」という学習のゴールを設定し、児童に目的意識を持たせる。「ガイドブック」には、以下の「読みの観点」を使って、まとめさせる。

- | | |
|----------------------|---------------------------|
| ①「設定・展開・山場・結末」に分ける | ②「設定」(「時・場・人」)を明確にする |
| ③「人物マップ」を作る(人物像) | ④あらすじを一文で表す(「時・場・人」を使う) |
| ⑤「繰り返し」を紹介する | ⑥「文章構成図」を作る(作品を一軒の家に見立てる) |
| ⑦情景描写の役割を書く | ⑧中心人物の変化を書く |
| ⑨「人物の目線」(視点の転換)を紹介する | ⑩題名を長くする(「と」の意味) |

第一次では、本教材を読み解くために必要な「読みの観点」を習得・活用させる。ここでは、二つの教材を用いる。一つは、『きつねのおきゃくさま』(下学年教材)である。時・場・人、設定・展開・山場・結末、クライマックス、繰り返し、題名(キーワード)など、既習の「読みの観点」を使わせる(図知って、図使って)。「○○みたいなお兄ちゃん」、「まるまる太ってきたぜ」など、繰り返しがあること、人物が次々と登場することに気付かせながら、既習の「読みの観点」を抽出する。もう一つは、『ごんぎつね』(4年教材)である。ここでは、既習の「読みの観点」を活用させる(図使って、図使えるようにして)。繰り返されているものを問い、展開は山場に向かう布石になっていることを確認する。また、「見ると」、「目につきました」、「目を落としました」の表現に着目させ、人物の目線(視点)を使って、「兵十」のクライマックスを検討させる。さらには、題名の工夫に気づかせるために、『ごんと兵十』という題名ではいけないのかと問い、俯瞰して読ませるようにする。

第二次では、第一次で習得した「読みの観点」を活用しながら、本教材を読み取らせる(図使えるようにして)。本時に至るまでに以下の三つを確定する。

一つ目は、既習の「読みの観点」を基に、設定・展開・山場・結末に分けさせる。その際、「今年も」、「その翌日」、「その翌年も」、「秋の日が」、「あかつきの光」、「東の空が」、「ある晴れた春の朝」など、時間ことばや情景描写を基に、四つより多く分ける児童が出てくるであろう。そこで、話し合う場を設ける。最終的には、三つの「知恵比べ」を基に確定する。

二つ目は、展開を捉えさせる。三つの「知恵比べ」を作戰、情景描写、心内語の三項目に分け、表にまとめさせる。また、挿絵(「残雪」を小屋で待つ「大造じいさん」)を四枚提示し、時系列に並び替えをさせる。児童は、「あかつきの空」、「すがすがしく流れ込んで」、「黒く点々と」、「ほおがびりびり」などの表現に着目し、話者が「大造じいさん」の側にいることに気づくであろう。そこで、話者の位置を確定するために、「大造じいさん」に接近している順に挿絵を並び替えをさせる。さらには、「大造じいさん」から「残雪」へ視点が変わった所を特定させ、クライマックスへの布石とする。

三つ目は、山場を捉えさせる。はじめに、「東の空が真っ赤に燃えて」を取り上げる。なぜ「真っ赤」なのか、「雨の日」や「あかつきの光」ではいけなかったのかを問い、「大造じいさん」の並々ならぬ思いが情景描写に表れていることに気づかせる。その際、「しめたぞ」、「ほほう」、「ただが鳥のことだ」、「たいした知恵を」などの心内語に着目させ、「大造じいさん」の「残雪」に対する見方の変化を捉えさせる。さらに、「大造じいさん」から「残雪」に視点が転換した所を問い、クライマックスを特定する。視点の転換、話者の位置に気づかせるために、挿絵に「大造じいさん」が出てこない理由を話し合わせ、「白い花卉」、「すんだ空」、「くれない」などの色彩語、「最期」、「頭領としてのいげん」、「ただの鳥」などの叙述に着目させながら、心情の変化を捉えさせる。

本時は、「残雪」を見送る場面を扱う。視点の異なる複数の挿絵を提示し、強調される内容の違いに気づかせる(図共に使う)。児童は、①「大造じいさん」の表情が見える見えない、②「大造じいさん」がいるいない、③話者の位置の違いに着目するであろう。そこで、「なぜそのような挿絵になっているのか」と問い、話し合う場を設ける。その際、「晴れ晴れとした顔」、「快い羽音」、「一直線に」、「はらはら」など、挿絵から強調される叙述を挙げさせる。また、「残雪」の呼び名の変化を扱う。「ガン」の英雄、「えらぶつ」、「おい」、「ガン」などを挙げさせ、変化した理由について話し合わせる。終末では、「この作品で欠かせないしかけ」(『読みの観点』)は何か、と問い、「読みの観点」を選択させたり、理由を発表させたりすることで、作品を読み進める方法を児童に自覚させていく。

第三次では、読み取った内容を「ガイドブック」にまとめさせる。ここでは、習得した「読みの観点」から作らせ、他の作品を読む時のポイントを書き加えさせる。できあがった「ガイドブック」は、司書教諭と連携し、図書室に紹介コーナーを設置し、児童同士が読み合う環境を作る。

5 指導計画（全11時間）

※ ゴシックは視点に関わる部分

次	時	学 習 者		指 導 者	
		意 識	学習活動	意 図	指導及び支援【評価の観点】
一	1	「ガイドブック」を作ってみたいな。	学習課題を知る。	学習に見通しを持たせる。	・目的意識、相手意識を持たせるために、「ガイドブック」を作り、図書室に設置することを知らせる。 ・「ガイドブック」には、「作品のしかけ」と称し、「読みの観点」を紹介することを確認する。【関】
	2	お話は、四つに分かれるよ。繰り返しがあるよ。	教材Ⅰを読み取る。 『きつねのおきやくさま』 ①知って ②使って	既習の「読みの観点」を使わせ、整理する。	・以下の「読みの観点」を使って読ませる。【読】 1)「設定」（「時・場・人」） 2)「中心人物」「対人物」 3)「人物像」 4)「設定・展開・山場・結末」 5)「中心人物の気持ちの変化」 6)「クライマックス」 7)「繰り返し」 8)文章構成図 9)題名（キーワード）10)副題
	3	いつ、何を見たとき、人物の気持ちは変化するのかな。	教材Ⅱを読み取る。 『ごんぎつね』 ③使って ④使えるようにして	既習の「読みの観点」を使い、活用させる。	・「設定・展開・山場・結末」に分けさせ、結末がないことに気づかせる。 ・中心人物の変化を問う。 ・繰り返されているものを問う。 ・「兵十」のクライマックスを問う（視点の転換）。 →「見ると」「目につきました」「目を落としました」 ・題名について話し合わせる（題名の工夫）。 →『ごんと兵十』ではいけないのか【読】
二	4	前の勉強で学んだことを使ってみよう。	作品を四つに分ける。 作品の「しかけ」「設定」編 ④使えるようにして	「読みの観点」を使い、俯瞰して読ませる。	・教室掲示したカード（既習の「読みの観点」）を基に、自力で読ませる。 ・設定、人物像を捉えさせる。 ・「この作品のおもしろさはどこにあるのか」、「どんなしかけが仕込まれているのか」と問い、読むための見通しを持たせる。【読】
	5	「繰り返し」がたくさんあるよ。	展開を捉える。 作品の「しかけ」「展開」編Ⅰ	場面の繰り返しを捉えさせる。	・繰り返されているものは何かを問い、「大造じいさん」の作戦を三つに分けさせる。【読】 「①うなぎ釣り針作戦」、「②たにしばらまき作戦」 「③おとりのガン作戦」
	6	「大造じいさん」は「残雪」をどう思っているのかな。	二つの作戦を比較する。 作品の「しかけ」「展開」編Ⅱ	情景描写や心内語を基に「大造じいさん」の心情を読み取らせる。	・挿絵（小屋で「残雪」を待つ場面）を四枚提示し、並び替えをさせ、「あかつきの空」、「すがすがしく流れ込んで」などの情景描写に着目させる。 ・「大造じいさん」と「残雪」のどちらから見た挿絵なのかを問い、視点人物を確定する。 ・「ううむ」と「ううん」の違いを検討させる。【読】
	7	どうして、どきどきわくわくするのかな。	山場を捉える。 作品の「しかけ」「山場」編	クライマックスを検討し、人物の心情変化を読み取らせる。	・「東の空が真っ赤に燃えて」（情景描写）に着目させ、書かれている理由について話し合わせる。 ・「大造じいさん」から「残雪」に視点が転換した所を問い、心情の変化について話し合わせる。 ・挿絵に「大造じいさん」が出てこない理由について問う（話者の位置・視点の転換）。【読】
	8 【本時】	最後の場面にもおもしろい「しかけ」があるんだよ。	結末を捉える。 作品の「しかけ」「結末」編 ④共に使う	視点を基にしかけを読み取らせる。	・複数の挿絵を提示し、「大造じいさん」の表情が見える場合と見えない場合では、どのように違うのかを問い、話し合わせる。 ・「大造じいさん」、「残雪」のどちらから見た挿絵に近いのかを問い、強調される内容の違いに気づかせる。 ・「残雪」の呼び名の変化に着目させ、「なぜこのような題名が付いたのか」、理由を問う。【読】
三	9 10 11	このお話のおすすめポイントや「しかけ」はここだよ。	「ガイドブック」を完成させる。	「読みの観点」を活用した「ガイドブック」を作らせる。	・学習したことを「ガイドブック」にまとめさせる。 ・選択した「読みの観点」から説明させたり、紹介させたりするために以下の型を取り入れる。【読】 ・この作品の「しかけ」は…。 ・こんな読み方をするとよく読めるよ。 ・このカードを使って読むと…。

6 本時の指導（8／11時間）

(1) 目標

○ 指導目標

「視点」を基に挿絵を比較することを通して、強調される内容の違いを読み取らせる。

◇ 評価規準

「視点」を基に挿絵を比較することを通して、「話者の位置」を確定し、強調される内容の違いを読み取ることができる。【読むこと】

(2) 展開

※ ゴシックは視点に関わる部分

過程	学 習 活 動	教師の働きかけ（○）と形成的評価（◆）
見 通 す ／ 深 め る ／ 広 げ る	1 前時の学習を振り返る。	○児童の「ガイドブック」から「視点」に関する記述を紹介する。
	2 本時のめあてを知る。	
	「視点」をもとに作品のしかけを読み取ろう	
	3 「しかけ」を発表する。	○分かったこと、気づいたことを発言させる。
	(1)挿絵を比較する。	○「視点」の違いに気づかせるために、四枚の挿絵を提示し、比較させる。
	【予想される児童の発言内容】 ・「大造じいさん」の後ろ（近く）から、話者が見ているよ。だから、「残雪」を見守っている様子が伝わってくる。 ・「大造じいさん」の顔が見えるから、「おうい、がんの英ゆうよ」と、呼びかけている気持ちが伝わってくる。 ・「大造じいさん」が笑っているから、「はればれした顔つき」の様子がよくわかるよ。 ・「大造じいさん」の顔が見えない方が、読み手が自由に考えることができるから、ぼくは、見えない方が好き。 ・この絵だけ、「大造じいさん」がいらないよ。だから、「残雪」の「快い羽音一番」「バシッ」「一直線」など、飛び立つ様子がよく伝わってくるよ。 ・「いつまでもいつまでも」が強調される絵になっている。 ・どの絵にも「すもも」が描かれているよ。	a:「大造じいさん」の顔が見える b:「大造じいさん」が見送る（後ろ姿）① c:「大造じいさん」が見送る（後ろ姿）② d:「大造じいさん」の姿がない ○「視点人物（話者）」を確定させるために、挿絵が「大造じいさん」と「残雪」のどちらに近いのかを問う。 ○挿絵に「大造じいさん」が描かれていないことに気付かせるために、「仲間はずれはどれですか」と問い、一枚を確定する。 ○強調される内容（叙述）の違いに気づかせるために、「大造じいさん」の表情が見える場合と見えない場合では、どう違うのか、話し合わせる。 ○「結末」の違いに気づかせるために、既習教材『ごんぎつね』の挿絵を提示する。 ◆「視点」を基に挿絵を比較することを通して、「話者の位置」を確定し、強調される内容の違いを読み取ろうとしているか。（発言・ノート） A:「話者の位置」「情景描写」、挿絵の効果を基に強調される内容について、根拠を示しながら、説明したりノートに書いたりすることができる。 B:「話者の位置」を確定し、挿絵と叙述を結び付けながら、強調される内容の違いについて説明したり、ノートに書いたりすることができる。 →この絵ならば、どの表現が強調されるのかと問い、挿絵の効果について考えさせる。 C:「話者の位置」を特定したり、挿絵に対応する叙述を見つけたりすることができない。 →「この絵にいないのはだれか」と問い、挿絵に矢印を書かせ視覚的に気付かせたり、選択肢を与え、話者の位置を選ばせたりする。
	(2)「呼び名の変化」を読む。	○「視点」の違いに気づかせるために、「残雪」の「呼び名の変化」を時系列に電子黒板に提示する。
		○「題名の工夫」に気づかせるために、「なぜこのような題名なのか」と問う。
	4 学習を振り返る。	○「読みの観点」を自覚させるために「この「しかけ」があれば、こんな読み方ができる」という発言をさせる。
		○「ガイドブックには、どんなことを載せたいか」と問い、学習日記を書かせる。
	5 次時の学習を知る。	○「ガイドブック」を仕上げることを知らせる。